

○今後のスケジュール（案）

作業メニュー		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
①モデルエリアでの試行（コナラ林）	整備・施業	・部会での方針決定（3-2、3-3の一部）	・エリア内の毎木調査 ・試験施工（伐採、間伐等）	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	—
	モニタリング [※]		・モニタリング内容（案）の作成	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	—
②新たなモデルエリアでの試行（例、エノキ林、ケヤキ林など）	整備・施業A	・部会で新たなエリアへ拡大していくことを承認	・試行が必要な林班の特定と林班ごとのモデルエリアの設定	・新たなエリアAの毎木調査 ・試験施工（伐採、間伐等）	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	—
	モニタリングA [※]			—	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	—
	整備・施業B			—	・新たなエリアBの毎木調査 ・試験施工（伐採、間伐等）	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	必要に応じて苗木植栽、下草刈り等	—
	モニタリングB [※]			—	—	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	モニタリング調査（植生の変化など、頻度は要調整）	—
③森づくりアクションプランの作成				—						・試行結果に基づくアクションプラン（案）の作成
④苗木の育成		・種子採取～播種～発芽 ・鉢上げ								

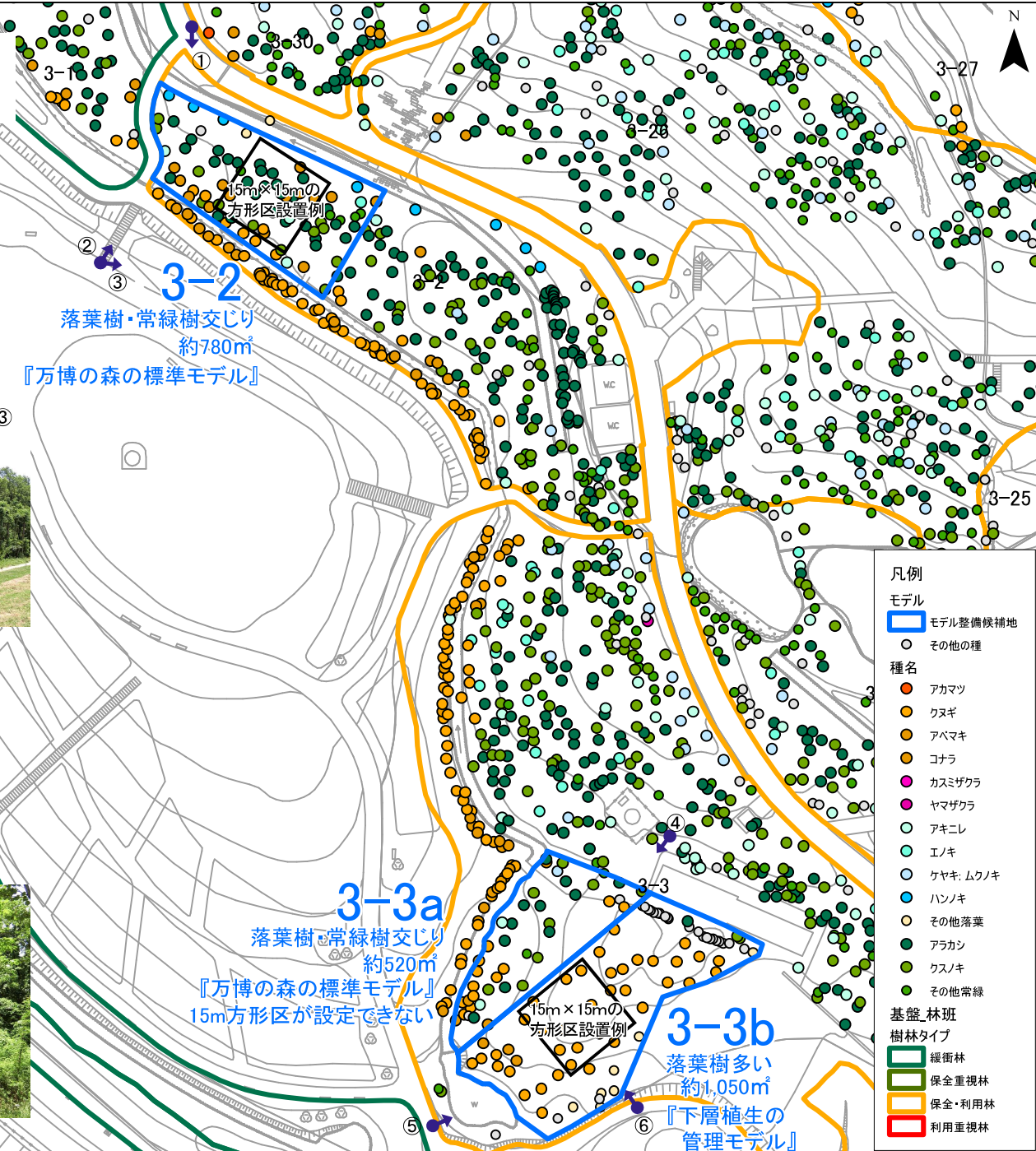
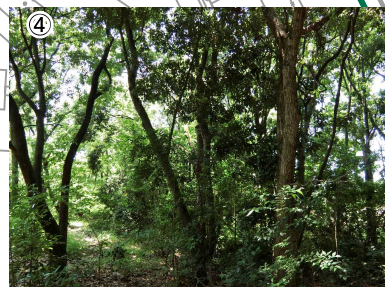
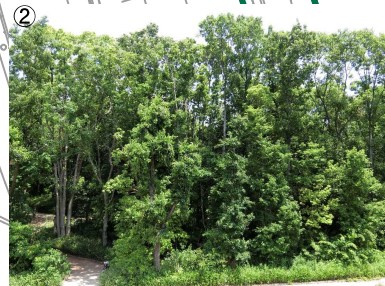
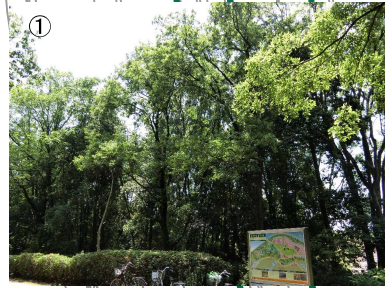
※試行を3つの目標林型と仮定した場合を示したスケジュールであり、試行の対象の増減によって変わることがある

○万博の森づくりのスケジュール（案）

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
① モデルエリア（コナラ林） における試行について	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルエリアの絞り込み ・モデルエリアの現地調査（設置位置、毎木、下層植生など） ・施工前写真 															<ul style="list-style-type: none"> ・実施プランの作成 （どれを切って、どれを残し、 どれを導入するか） 			<ul style="list-style-type: none"> ・除伐・間伐 ・根株撤去（予定） ・低林仕立て（予定） ・施工後写真 																	
② 苗木の育成管理	<ul style="list-style-type: none"> ・北摂の種子採取～播種～発芽 ・散水～除草 ・発芽量調査・生育量調査 																																			
緑整備部会 （吹き出しは審議内容）										<ul style="list-style-type: none"> ・現地確認 ・モデルエリアの絞り込み ・モニタリング実施方針（案）の作成 ・森の魅力発信について 						①	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木の育成状況について ・モデルエリアにおける実施プラン、施 業内容（間伐、台場仕立てなど） ・森の魅力発信について 						②	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルエリアにおける試行状況につ いて ・次期モデルエリアの設定 （試行樹種数、試行実施期間） ・森の魅力発信について 						③						
共同研究打合せ （吹き出しは打合内容）																①	<ul style="list-style-type: none"> ・現地確認（R2モデルエリア、 次期モデルエリアなど） ・モニタリング計画 ・部会について 						②	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルエリアにおける実施プ ラン（案）、 施業内容（案） の作成 ・森の魅力発信について 						③	<ul style="list-style-type: none"> ・次期モデルエリア候補地の選定 ・森の魅力発信について 					

◆モデルエリアの設定について(案)

【論点】 モデルエリアの絞り込みの妥当性について



凡例

モデル

- モデル整備候補地

種名

- その他の種
- アカマツ
- クヌギ
- アベマキ
- コナラ
- カスミザクラ
- ヤマザクラ
- アキニレ
- エノキ
- ケヤキ・ムクノキ
- ハンノキ
- その他の落葉
- アラカシ
- クスノキ
- その他の常緑

基盤 林班

樹林タイプ

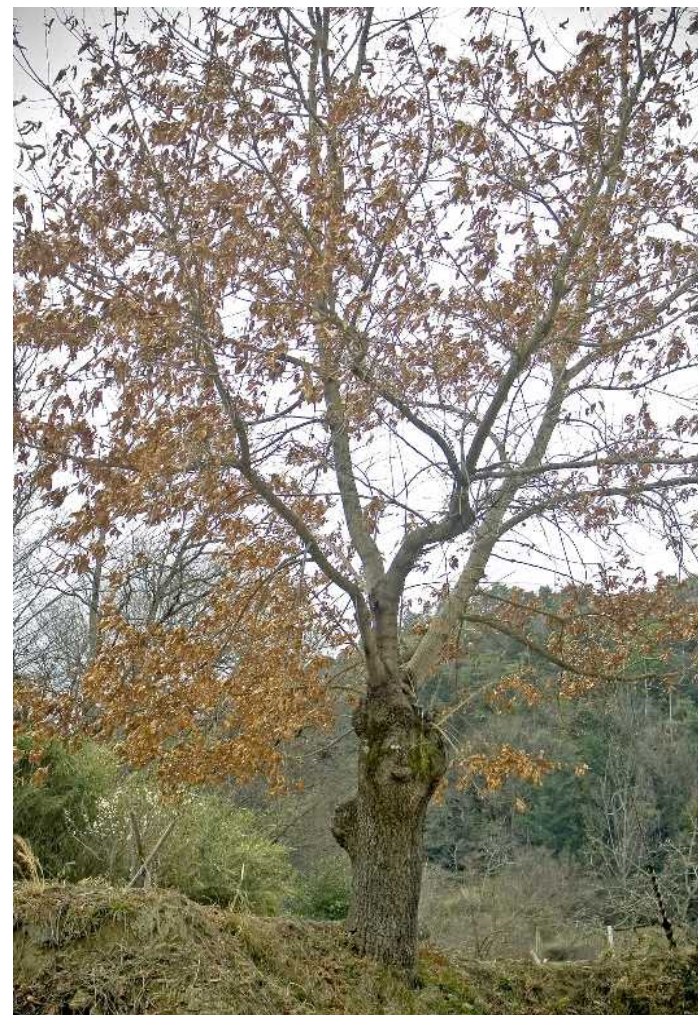
- 緩衝林
- 保全重視林
- 保全・利用林
- 利用重視林

■クヌギの台場仕立てについて（3-3b）

【論点】樹形に難ある個体について、台場仕立ての妥当性



樹形に難ありの個体（クヌギ）



台場クヌギのイメージ

万博の森におけるモニタリングの考え方（案）

【論点】 調査項目や調査頻度の妥当性

モニタリング期間	評価対象	評価項目	場所	調査項目	調査頻度	森づくりアクションプランでの目標設定例
試行期間	個別の施業方法	施業効果 (間伐・苗木植栽等)	試行エリア	萌芽再生状況（萌芽本数、萌芽枝伸長量）	毎年1回	萌芽再生率を〇%
				苗木活着状況（苗木生存率、伸長量）		苗木の活着率を〇%
				植生調査による種多様性（種数の確認等）		目標林型構成種の種多様性を〇%増加
				林冠被度の経年変化（ドローン撮影データ等）		常緑樹の林冠密度を〇%削減
				毎木・植生調査による各種データ（地上部現存量、樹高、胸高直径、立木密度、階層構造、被度）		常緑樹の立木密度、胸高断面積合計を〇%削減
本格実施期間	森づくりの達成状況	生物多様性	全域	生物相（植生、鳥類、菌類、カエル類、トンボ類、チョウ類等）の季節別変化	3～5年に1回	外来種の侵入抑制、指標種の増加
				林内構造（レーザー測量、林内撮影データ等）	5年に1回	下層植生の被度を〇%増加
		植生調査による種多様性（種数の確認、種数-面積関係の比		5～10年に1回	目標林型構成種の種多様性を〇%増加	
	目標植生への到達度	林冠・ギャップの経年・季節別変化（ドローン撮影データ等）		年に1～4回	常緑樹の林冠密度を〇%削減	
		毎木・植生調査による各種データ把握（地上部現存量、樹高、胸高直径、立木密度、階層構造、被度）		5～10年に1回	常緑樹の立木密度、胸高断面積合計を〇%削減	
					リター層の形成	
土壌						